

★左派勢力の団結を確認＝第 24 回サンパウロ・フォーラム

7月15～17日ラテンアメリカ・カリブ海の左派勢力が結集する第24回サンパウロ・フォーラムが、「地域の団結の強化」を求めて、キューバの首都ハバナ市で開催されました。会議には、昨今の地域の政治的緊張とキューバ政府の努力もあり、51カ国から168の政党、政治組織を代表して625名が参加し、かつてない規模となりました。

参加者として、エボ・モラーレス、ボリビア大統領、ディアスカネル、キューバ国家評議会議長、サンチェス・セレン、エルサルバドル大統領、ニコラス・マドゥーロ、ベネズエラ大統領の4人の現国家元首、ジルマ・ルセフ前ブラジル大統領、ラウル・カストロ前国家評議会議長、マヌエル・セラヤ元ホンジュラス大統領、マルティン・トリホス元パナマ大統領、ホアキン・チサノ、元モザンビーク大統領の5名の元国家元首、ケニー・アンソニー、セントルシア前首相、ダニエル・ダグラス、セントクリストファー・ネイビス前首相、リカルド・パティニョ、エルサルバドル元外相、60人の国会議員、ジェイドコル・ポレンスキー、メキシコの民族再生運動書記長、イグナシオ・ラモネ元ルモンド・ディプロマティック編集長、アティリオ・ボロン、ブエノスアイレス大学教授などが出席しました。拘禁中のイナシオ・ルーラ元ブラジル大統領、レニン・モレーノ、エクアドル政府により不当にも国際指名手配を受けているラファエル・コレア元エクアドル大統領は、それぞれ連帯のメッセージを会議に寄せました。文字通り、ラテンアメリカ・カリブ海の主要な左派指導者、知識人が参加し、活発に地域の現状について議論を交わす場所となりました。



会議は、最終宣言を発表し、次のことを強調しました。

- 世界平和を擁護する。地域ではラテンアメリカ平和地帯宣言を厳守する。
- 統合意識を各国民の間で広める。
- ラテンアメリカ・カリブ海共同体（CELAC）の擁護を最優先課題とする。
- 帝国主義の胎内で生まれている軍国主義を非難する。
- 地域が米国の権力のエリートに従属するという馬鹿げた受け入れられない考えを断固拒否する。
- 米国政府により利用されている米州機構（OAS）の干渉主義的役割を、道理をもって非難する。
- ヨーロッパの左翼とラテンアメリカ・カリブ海の行動の緊密化を図る。
- ベネズエラに対する、アメリカ帝国主義、そのヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海の実同盟国による非通常的、広範囲の戦争を非難する。
- 新自由主義への復帰に反対する地域の諸国との連帯を堅持する。
- ニカラグアの内部問題に対する米国の干渉政策を断固拒否する。
- ルーラ元大統領の即時釈放を要求する。

会議は、新自由主義と米国の干渉政策に反対する現職、元職の指導者、知識人の同窓会のようなものとなり、活発な意見が交換され、「楽観主義、固い決意、最大限に団結して戦いを維持する」ことを確認するものとなりました。

(2018年7月19日 新藤通弘)